

ドクター メモ

子供のかぜと抗生物質

処方できない理由がある

気温が下がってくると、かぜのシーズンに入ります。今年の春ごろから小児科を受診した人は「かぜや胃腸炎には抗生物質は効かないので、処方しません」という話をよく聞くようになったと思います。これはなぜでしょうか。

かぜは、のどの痛み、鼻水、咳を主な症状とするウイルス性の感染症で、多くの人は10〜14日程度で症状が改善する病気です。かぜは細菌が原因ではないため、抗生物質を飲んでも効果がありません。場合によっては、下痢を起したり抗生物質が効きにくい耐性菌を発生させたりする原因となります。

また、耐性菌が増えると、感染症の治療が困難となり、重症化することが多くなります。このため2016年4月に国は耐性菌を減らすことを目的に、2020年までに抗生物質の使用量を減らすため

の行動計画を発表しました。これに基づき、今年4月から多くの小児科では、かぜや胃腸炎などウイルス感染が疑われる場合には説明のうえ、抗生物質を処方しないようにしています。

「でも、本当は細菌が原因だったらどうするの。念のため抗生物質を飲んでおきたい」という意見もあるかもしれませんが。しかし、かぜ以外の病気ではないかを診るためにも、あらかじめ抗生物質を飲むのではなく、症状の経過や変化を観察し、症状があまりにも強いときや、発熱や症状が長引くときなど、どのような状態なら再び診察を受けるのかを先生と相談するのが良いのではないのでしょうか。本当に必要な場合に抗生物質を使用するという意識をみなさんで作っていきましょー。